2020年9月15日
No.196

ほら、よこはまはあったかい

市民活動・ボランティア活動情報誌

福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

fukushiyokohama

「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています

特集

つながりで暮らしを支える 暮らしに寄り添うまちのサポーター

瀬谷区・三ツ境地区サポーターズ

瀬谷区・三ツ境地区サポーターズ、生活支援グループで活動する佐々木さん（奥）と付き添いを依頼した小林さん（前）
（7月16日撮影）
→詳しくは特集で

もくじ

★ 福祉の仕事：横浜市高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター P4
★ ボラセン情報：企業のみなさんによる社会貢献活動・ボランティア講座 P5
★ 市社協情報：10月1日から赤い羽根共同募金がはじまります！ P6

ここから最新号とバックナンバーをご覧になれます
福祉よこはま 検索

つながりで暮らしを支える 暮らしに寄り添うまちのサポーター

瀬谷区・三ツ境地区サポーターズ

サポーターズ誕生のきっかけ

▲三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会事務局長で三ツ境地区サポーターズ代表の篠原孝太郎さん

代表を務める篠原さんは民生委員として活動する中で、ゴミ出しや買い物など、**暮らしの中の困りごとを抱えている高齢者の声を聞き、地域の中で支え合えたらと感じていました。**そこで地域福祉保健計画地区別計画（※1）の推進母体である「三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会」で話し合いを重ね、まずは**ニーズについて把握をするとともに、一人でも多くの方に地域活動にかかわってもらえるよう、地域に向けて「サポートして欲しいこと」、「サポートできること」についてアンケートを行いました。**

この推進委員会はさまざまな意見を取り入れるため、三ツ境連合自治会や地区社協を中心に自治会町内会、民生委員・児童委員、友愛活動員などさまざまな団体に声をかけ、地域で一体となって取り組んできました。

成功のカギは「あせらず、あわてず、無理のないように」

アンケートを行うと、お祭りなど地域活動の手伝いをしたい、趣味や特技を生かして活動したいと多くの声が寄せられるとともに、地域で困りごとを支える仕組みに賛同し、80名以上の協力者が集まりました。活動方法や内容など、実際に他の地域の取組を見学し、これなら無理なくできると思えるまでじっくりと時間をかけて話し合いを重ねました。**参加された方は皆一様に地域に恩返しがしたいと話していて、これだけ多くの方が集まった背景には、長年生活してきたまちへの愛着があったこと、仕事を定年退職して地域とのつながりをもつきっかけを求めていた人が多くいらっしゃったことがあるのではないでしょうか。**

▲三ツ境地区
サポーターズ立ち上げ時の写真

pick up!!

三ツ境地区サポーターズ誕生

そして3つのグループが生まれました。

1 地域活動グループ
お祭りや地域のイベントの手伝いなど

2 趣味・特技を生かしたグループ
健康麻雀の担い手

3 生活支援グループ
庭木の剪定、買い物や通院の付き添い、ゴミ捨てや電球交換など

これまで地域活動に参加する機会の少なかった方が、地域とつながるきっかけにもなりました。
活動を通して、顔の見えるお互い様と思える関係が広がり、地域への愛着もさらに深まっています。

※1 地域福祉保健計画は、誰もが安心して暮らせるよう、住民や事業者、公的機関などがお互いに協力し、地域の福祉課題解決に向けて取り組み、身近な地域の支え合いの仕組みづくりを進めるための計画です。

地域の中で安心して豊かに暮らし続けるために、三ツ境地区ではつながりを大切にしながら、暮らしの中のちょっとした困りごとを受け止め、支え合う仕組みづくりに取り組んできました。さまざまな人がつながり、自分たちにできることを生かして無理なく自然体で支え合う、そんな三ツ境地区サポーターズ（以下、サポーターズ）の取り組みについて紹介します。

＼今回はこちらのグループをご紹介!! ／

三ツ境地区サポーターズ 生活支援グループ

地域にお住いの高齢者やお身体の不自由な方に対し、庭の手入れやゴミ捨て、買い物や病院の付き添いなど、ちょっとした手助けをする活動です。依頼は毎週木曜日、午後1時～5時の間に電話で受け付け、必要に応じて下見をした上で、ボランティアをコーディネートします。

活動を開始した当初は依頼も少なかったのですが、チラシを作成して各町内会をまわったり、少しずつ口コミで広まっていく中で、依頼件数は3倍近くに増えてきました。

無理なく自然体で 顔の見えるつながりで地域として考える

「民生委員だけでは目の行き届かないときに、地域での支え合いの仕組みがあれば」と感じており、民生委員退任後、コーディネーターを引き受けることにしました。自治会長や民生委員など皆さん顔見知りの方が多く、困ったときにはいつでも相談できるので気苦労はないです。**同じ地域に住んでいるのだから困っているときにお手伝いをしたり、お互いに支え合うのは自然なこと。活動や人とのつながりが元気の秘訣です。**

▲生活支援グループコーディネーター
保田幸子さん

自治会長さんたちが地域のために活動している姿を間近に見ていたので、募集をみてすぐに応募しました。月に2～3回程、庭木の剪定を中心にお手伝いしています。**活動を通して地域の中で挨拶や声をかけられる機会も増え、活動の励みになっています。**

ボランティア▶
伊原寛さん

定年後、家にいることが多くなり、地域とのつながりが少なく、このままではいけないと感じていたところ、これなら無理なくやっていけそうと感じ応募しました。病院や買い物の付添いを中心に活動していますが、**本当のニーズは、人とのつながりや親しく話す相手が欲しいということじゃないかなと感じることが多いです。**

ボランティア▶
佐々木志保さん

生活支援グループの活動の様子▶
（庭木の剪定、草とり、通院の付き添いなど）

目の前に困っている人がいて、誰かが担わなければいけないことだから

コーディネーターの保田さんは、依頼者とボランティアをつなぐだけでなく、お互いの相性やボランティアとして対応できる内容かを見極めてコーディネートすることを心掛けています。

お互いの顔の見える地域住民だからこそ、安心して依頼することができ、活動が地域の中に根付いてきています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、庭木の剪定などの活動は一時休止していましたが、病院の付き添いなど健康や生活を維持するために必要な依頼は、接触を最小限にし、感染予防に配慮しながらも変わらず対応しています。

見守り支え合いの形が地域に溶け込んでいるからこそ、これからも無理なく自然体で活動が続いていきます。

シリーズ No.44

福祉の仕事

支援コーディネーター

横浜市高次脳機能障害支援センターの

薬師寺（やくしじ） 奈津美（なつみ）さん に聞きました

ご本人や家族に寄り添い、障害について理解してくださる方が一人でも増えるよう、社会とのつながりや環境づくりに取り組んでいます。

この仕事を選んだきっかけ

福祉の仕事に関心を持ち始めたのは、小学校の時に参加したボランティア講座がきっかけです。大学で福祉について学ぶ中で、直接人と接する仕事がしたいと思い横浜市総合リハビリテーションセンターで働き始めました。採用当時に配属された障害者支援施設でさまざまな障害のある方と接し、高次脳機能障害についても理解を深めていきました。

日々の仕事

電話や来所いただいての相談対応の他、月に１～２回は専門相談を実施している各区の中途障害者地域活動センターで相談対応をしています。また高次脳機能障害は外からは見えにくい面が多いため、家族教室や支援者向け研修の開催など普及啓発に取り組むとともに、家族や職場などご本人を取り巻く方たちをつなぎ、理解を深め、職場復帰や社会参加にむけて環境を整えていくことに取り組んでいます。

心がけていること

相談に来てくださる方は、病気や事故などで生活が大きく変わり、皆さんさまざまな思いや葛藤を抱えています。これまでと変わったことや難しくなったことに対する工夫や代わりの方法を一緒に考え、これからの生活が少しでも良い方向に向かうかもしれない、できることがあるかもしれないと思っていただけるよう、その方の困りごとや辛さに寄り添える相談支援を心がけています。

喜び、やりがい

どのように困りごとと向き合ったらよいか悩んでいた方たちが、相談をきっかけにまわりの方とも共有できるようになること、また多様な社会資源とつながる中で、たとえ時間はかかっても職場復帰や社会とのつながりをつくりだしていけることが嬉しいです。

この仕事を目指す人へ

この障害は子どもから高齢者まで、誰もがなりうる可能性があります。人と関わる仕事であれば、どの分野の方でも接する機会があると思うので、症状や接し方など、まずは障害について理解してもらいたいです。

高次脳機能障害とは

脳卒中や脳外傷など、脳の損傷が原因で生じる障害です。意欲、記憶力や注意力の低下、計画的に物事に取り組むことの支障、感情コントロールがうまくいかないといった症状が現れます。

高次脳機能障害支援センターとは

高次脳機能障害のある方たちが地域で安心して生活を送ることができるように、当事者、家族、支援者のさまざまな困りごとについて、専任の支援コーディネーターを配置し、関係機関と連携しながら、専門的な支援を総合的に行っています。

※横浜市は、横浜市総合リハビリテーションセンター（港北区）内に高次脳機能障害支援センターが設置されています。

支援コーディネーター

高次脳機能障害に関する相談支援を中心に、関係機関との調整や、普及啓発などを担っています。

専門相談

高次脳機能障害に関しての日常生活での困りごとやこれからの生活、活動などについて、身近な地域で相談をお受けします。

〈お問合せ先〉専門相談を実施している各区中途障害者地域活動センターへお問い合わせください（要予約）。高次脳機能障害支援センターの職員が一緒に対応します。
詳細はホームページをご覧ください。

- **横浜市高次脳機能障害専門相談**
  http://www.yokohama-rf.jp/common/pdf/hb_senmon.pdf

情報共有やコミュニケーションを密に行い、より良い支援を検討します。

◆ この記事に関するお問合せは
企画部企画課　☎ 201-2090

横浜市内の福祉人材に関する求人情報 ⇨
ウェルじゃん 求人情報
横浜市 介護人材情報

企業のみなさんによる

社会貢献活動・ボランティア講座

社会の一員として貢献したい。社員のボランティア活動を応援したい。
横浜のために何かしたい、と考える企業からのご相談が増えています。今回は市内企業における2つの事例を紹介します。

休校中の子どもたちや、その家庭を支援したい ～コロナ禍で、なにができるか～

横浜スープカリー アルペンジロー
（株式会社ブライダルプロデュース・中区）
本社オペレーションマネジメント室新規事業部　千葉 浩徳さん

今年35周年を迎えた横浜スープカリー アルペンジロー。日頃から行っているケータリング事業のノウハウも生かし、カレーのお弁当を無償提供しました。

経緯

新型コロナウイルス感染症拡大により営業の縮小を余儀なくされましたが、お客様から「応援しているから頑張ってね！」など沢山の温かいお言葉をいただき、**地元横浜の人たちに支えられていることを実感しました。こんなときだからこそ地元に何か還元したいという思いから、**地域で開催されている「公園遊びサポーター」や学童クラブなど、計10か所に949食のお弁当を届けました。

※2020年3月撮影

工夫したこと

無償提供だからといって品質を落としては本末転倒。衛生面の配慮を最優先に、**「すべてにこだわろう！」という思いで、**子ども向けの味付けにしたり、温かい状態を維持し、かつキャンプ気分で楽しく食事してもらえるようアルミ容器に変更したりしました。

当日、**「食べるのが楽しみ！」と嬉しそうに持ち帰った小学生の笑顔が忘れられません。**「共働きだから一食分作るのも大変。おいしいカレーはありがたい」という保護者の方の言葉も励みになりました。

活動してみて

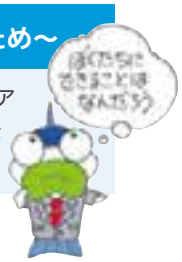
なかなか社会貢献活動に携わる機会がないので、喜んでくれるか不安もありましたが、子どもたちが楽しそうに食事をする姿を見て、**「やって良かった！」とスタッフ全員が思いました。**

地域に根差す飲食店として、「今できること」「自分たちだからこそできること」を考え、今後も社会貢献をしていきたいと思います。

社員にボランティア活動しやすい環境をつくりたい ～豊かな社会づくりへの貢献のため～

横浜高速鉄道 株式会社（中区）
経営管理部次長兼総務課長　糸口 剛さん

令和元年に発生した台風被害への支援で災害ボランティア活動をしたい！という社員の声があり、就業時間の一部をあてて、ボランティア講座を開催しました。



講座のおもな内容

- 横浜市ボランティアセンターについて
- 災害ボランティアセンターの役割
- ボランティア４原則、心構え
- 災害ボランティアの活動心得

など

講座を開催してみて

参加した社員から積極的に質問が多く出て、**開催して良かったと思いました。**

また、ボランティア活動を希望する社員のために開催しましたが、他の社員も参加してくれ、**ボランティアに興味を持つ社員が多くいるとわかったことが大きな収穫でした。**今後はボランティアを経験した社員の報告会を開催して、ボランティア活動に取り組む社員を増やしていきたいと思います。

ボランティアしやすい環境づくり

経営計画に社員のボランティア活動支援を掲げ、社員が取り組みやすいよう2019年4月にボランティア休暇制度を制定しました。年5日間のボランティア有給休暇取得を可能にし、ボランティア活動保険料を会社が負担しています。

災害ボランティアに参加した社員からの感想

活動をしてみて、現地の被災状況で準備すべき道具が変わることを知りました。また、**被災地の状況や、被災した方たちの気持ちを汲み取って参加することが必要**だと痛感しました。

▲活動先に向かう途中です

横浜市ボランティアセンターより

横浜市ボランティアセンターでは、これからボランティア活動をしてみたい、社内で福祉やボランティアについて学びたい！などのご相談を受け付けています。

横浜市ボランティアセンター
☎201-8620　✉yvc@yokohamashakyo.jp
そのほか企業の取組み事例などをご紹介しています。　ホームページはこちら➡

各区
ボランティアセンター
ホームページはこちら➡

今年のPR大使はフンボルトペンギンの「アポロ」に決定！

10月1日から赤い羽根共同募金がはじまります！

今年は、野毛山動物園で飼育展示されているフンボルトペンギン「アポロ」が共同募金PR大使に就任されました！

共同募金は、地域で活躍する福祉団体や福祉施設の活動支援に役立てられます。アポロとともに、共同募金を応援してください！

共同募金をよろしくね★

500円以上の募金をくださった方には、「アポロ」のピンバッジを差し上げます。ご希望の方は、お問い合わせください。

【問合せ】
横浜市社会福祉協議会 地域福祉課
☎ 201-8617

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和2年1月21日～令和2年7月31日 新規受付・継続受付分　順不同・敬称略

団体会員

- ユークス総合建築 株式会社
- NPO法人 ぞうの歌
- 社会福祉法人 慶優会 特別養護老人ホーム 今宿ホーム
- NPO法人 神奈川県腎友会
- 税理士法人 仲田パートナーズ会計
- 株式会社 よこはま住生活
- 有限会社 アーバンハウス
- 横浜商工会議所
- 株式会社 江戸清
- 一般社団法人 日本シルバーサポート協会 神奈川支部
- 株式会社 アースアンドウォーター

個人会員

- 齋藤　史郎
- 坂田　謙太朗
- 青木　伸久
- 中丸　良久
- 加藤　仁美
- 中野間　誠
- 我妻　八重子
- 石田　隆
- 杉山　順三郎
- 山田　篤
- 竹若　暢彦
- 内海　利行
- 宗貞　秀紀
- 芝　良弘
- 福田　康雄

詳しくはホームページをご覧ください ▶

【問合せ】横浜市社会福祉協議会総務部 総務課　☎ 201-2096

みんなのきもち ありがとう

みなさまから寄せられたご寄付は、市内の市民活動団体、障害児・者団体の支援のため、有効に活用させていただきます。

ご寄付いただきました（善意銀行）
横濱Bar'sデー実行委員会

「横濱Bar'sデー実行委員会」様は、横浜を拠点にBarを経営するバーテンダーなどで構成されています。実行委員会では、日本のBar発祥の地である横浜でカクテル文化を盛り上げ、横浜の魅力の一つとして国内・海外に発信するとともに、社会に貢献するため平成17年よりチャリティーイベントを開催しています。これまで新潟県中越地震の被災者や横浜市の児童養護施設・母子生活支援施設の子どもたちにご寄付をされ、横浜市社協へは平成19年よりご寄付をいただいています。

寄付者の声

1860年に横浜市中区のホテルで日本初のBarが生まれてから、今年で160周年の節目を迎えました。

今回のチャリティーイベントとして、100店舗以上の横浜のBarを中心に、洋酒メーカー様や酒販店様のご支援により「横濱Bar'sデー160チャリティーカクテルパーティー」を開催しました。当日は400名の方にご参加いただき、多くのご寄付が集まりました。

これからもカクテル文化を盛り上げるとともに、子どもたちへの支援として社会貢献を続けていきたいと思います。

♪♬♪

2020年2月
横濱Bar'sデーチャリティカクテルパーティーの様子▶

横浜市ボランティアセンターでは、寄付のご相談をお受けしています。☎ 201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略　令和2年1月1日～ 6月30日受付分

善意銀行　金銭寄付者

- 株式会社 横浜ステーションビル シァルプラット東神奈川
- ブックオフコーポレーション 株式会社(6件)
- 株式会社 ベルク フォルテ森永橋店 お客様一同
- 土志田建設 株式会社
- 株式会社 くらしの友
- 株式会社 夢グループ 代表取締役 石田 重廣
- 横浜市社会福祉センター利用者一同(2件)
- 一般財団法人 よこしんふれあい財団 理事長 大前 茂
- よこはまシニアボランティアポイント登録者
- 横濱Bar'sデー実行委員会
- 宮田 千里
- 臼井 敏雄
- 匿名（3件）

善意銀行　物品寄付者

- 株式会社 NB建設
- 相鉄グループCSR推進事務局
  - 相模鉄道 株式会社
  - 相鉄バス 株式会社
  - 相鉄ステーションリテール 株式会社
  - 相鉄ローゼン 株式会社
  - 株式会社 葉山ポンジュール
  - 相栄フーズ 株式会社
  - 相鉄不動産 株式会社
  - 相鉄不動産販売 株式会社
  - 株式会社 相鉄リビングサポート
  - 株式会社 相鉄アーバンクリエイツ
  - 横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ
  - 株式会社 相鉄ホテルマネジメント
  - 株式会社 相鉄ホテル開発
  - 相鉄企業 株式会社
  - 横浜熱供給 株式会社
  - 株式会社 相鉄ピュアウォーター
  - 相鉄ビジネスサービス 株式会社
  - 相鉄ホールディングス 株式会社
- 株式会社 インフィニティー
- 公益財団法人 みずほ教育福祉財団 理事長 塚本 隆史（2件）
- JXアイティソリューション 株式会社
- 横浜信用金庫
- 株式会社 CTC物流
- 株式会社 横浜スタジアム 代表取締役社長 藤井 謙宗
- KDDI 株式会社 南関東総支社（3件）
- 横浜南央ロータリークラブ
- 合同会社 rakusou
- 押切 洋子
- 株式会社 クナイプジャパン
- 横浜マリノス 株式会社
- コカ・コーラ ボトラーズジャパン 株式会社
- ゼット・エフ・ジャパン 株式会社
- 株式会社 セブン-イレブン・ジャパン（4件）
- 株式会社 シェルガーデン（3件）
- 株式会社 イトーヨーカ堂（3件）
- 株式会社 そごう・西武（3件）
- 株式会社 ヨークベニマル（3件）
- 株式会社 赤ちゃん本舗（3件）
- 株式会社 ヨークマート（3件）
- 株式会社 ダイイチ（3件）
- 株式会社 アインファーマシーズ（3件）
- 株式会社 天満屋ストア（3件）

よこはま あいあい基金寄付者

- よこはまシニアボランティアポイント登録者
- 匿名（1件）

障害者年記念基金寄付者

- 共に生きるふれあいバザー実行委員会 代表 綱川 健一
- 株式会社 大宮ゴルフコース 代表取締役 甘糟 澄子
- よこはまシニアボランティアポイント登録者
- 匿名（1件）

福祉基金寄付者

- 一般社団法人 横浜市港友会
- 事業特定型（障害のあるお子さんとご家族の幸せオーラ撮影会）（18件）
- 事業特定型（新型コロナの影響で食べることに困っている人を支えたい）（124件）
- 事業特定型（横浜の若者に「食の支援」を通して「地域の支えあい」を伝えたい）（71件）
- 事業特定型（ひとり親の子どもの食を障害者の職とともに支える）（17件）
- 匿名（1件）

ヨコハマ寄付本寄付者

- KDDI 株式会社 南関東総支社
- 損保ジャパン日本興亜 横浜自動車営業部　第二課
- 栄区民一同（2件）
- NECネッツエスアイ株式会社 神奈川支店
- 小林 高志
- 片山 章
- みなこおばさん
- 日揮ホールディングス 株式会社
- 万里設備 株式会社
- 小林 景子
- フォーシーズンズヴィラそよかぜ
- 株式会社 バンテックセントラル
- さんこ
- 我妻 潤子
- Kevin
- よこはま市民共同オフィス
- ウィリング横浜利用者一同
- 横浜市社会福祉センター 利用者一同（2件）
- 老人福祉センター 横浜市野毛山荘
- 老人福祉センター ユートピア青葉・もえぎ野地域ケアプラザ（2件）
- 横浜市反町地域ケアプラザ（3件）
- 横浜市麦田地域ケアプラザ　利用者
- 横浜市東永谷地域ケアプラザ（2件）
- 横浜市並木地域ケアプラザ（2件）
- 横浜市東戸塚地域ケアプラザ
- 横浜市豊田地域ケアプラザ
- 神奈川区福祉保健活動拠点（2件）
- 横浜市保土ケ谷区社会福祉協議会
- 横浜市旭区社会福祉協議会
- 匿名（48件）

※事業特定型の寄付者については、横浜市ボランティアセンターのホームページにて掲載させていただきます。

横浜市ボランティアセンター

みんなの声

前号の感想

寄付金配分会に参加した学生さんが「相手がどう思うのかを考えるようになった」との感想を述べていたのが印象深く、活動で副産物を得られたことが良かったと思いました。
（金沢区　匿名）

民生委員さんには私もいろいろ教えてもらい、とても助かった経験があります。笑顔の大切さ、私も見習いたいです。
（戸塚区　重田 洋子）

民生委員・児童委員の杉山さんの言葉、役割が印象に残り、福祉って奥が深いんだと改めてわかりました。民生委員・児童委員の方ありがとうございます。
（中区　匿名）

毎号、楽しみにして拝読しております。
総合学園ヒューマンアカデミー横浜校（神奈川区）さんが行なっている、「横浜サンタプロジェクト」に関して、これからも様々な環境に置かれている方へ「夢と希望」を届けて頂きたいと感じました。
（磯子区　Y.F）

福祉よこはま、新たなつながりでまちに広がる支えあい。
私も高齢者のひとりです。主人と二人暮らしです。今、一人暮らしで支え合いが必要な方が多いと思います。元気で生活していくには、皆さんの力添えが大いに期待されます。これからもっと必要とされます。大いに活躍される事を祈ります。
（泉区　匿名）

横浜のサンタプロジェクト、参加者側として毎年楽しませて頂いています！知ったのが３年前でした。子どもと一緒になって大人の私もとても楽しませて頂き、もっと前からやっていたことを知っていたら最初から毎年参加したなぁ！と思います。多くのボランティアの方々のおかげで、盛大なイベントを運営して頂いていること、たいへん感謝の気持ちです。今後も末永く続きますように☆
（旭区　匿名）

写真も多く読みやすいです。
中区内で介護の仕事をしています。週に数日の勤務ですが、当事者が住む地区が少しでもよくなるよう、高齢ですが励んでみようと思ってます。
（市外　湯川 勉）

福よこクイズ

ご応募・ご感想お待ちしています！

「介助犬チャリティーグッズ トートバック」プレゼント！

A4ファイルも楽々入る大きさで、エコバッグとしても重宝します。

介助犬は、手や足に障害がある方の生活動作を手助けするために特別な訓練を受けた犬です。日本介助犬協会は、「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」をモットーに介助犬などの育成と普及活動、犬と共にさまざまな方を笑顔にする活動を行っています。
〈ホームページ〉https://s-dog.jp

色はお任せください

Q1 特集：三ツ境地区○○○○○○は、暮らしの中の困りごとを、無理なく自然体で支え合っています。（カタカナ６文字）

Q2 福祉の仕事：今回インタビューした薬師寺さんは、社会とのつながりや○○づくりに取り組んでいます。（漢字２文字）

Q3 市社協情報：赤い羽根共同募金　今年のPR大使は野毛山動物園で飼育展示されている、フンボルトペンギンの○○○です。（カタカナ３文字）

応募方法

はがき・FAX・Eメールにて、右記をご記入のうえお送りください。

抽選で**15名**の方に**プレゼント**を差し上げます。

締め切り：
令和2年10月30日（金）必着

【応募先】
〒231-8482
横浜市中区桜木町1-1
横浜市社協
「福よこクイズ」係
FAX：045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp

【項目】
1）Q1～3の答え
2）郵便番号・住所
3）氏名（ふりがな）
4）年齢　5）電話番号
6）福祉よこはまの入手方法
7）福祉よこはまの感想
8）「みんなの声」次号掲載時の氏名の掲載可否（匿名希望の場合はイニシャルを記載）

【個人情報取扱】
※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考にのみ利用させていただきます。

前号195号の福よこクイズの答えは、Q1：ハッピー　Q2：笑顔　Q3：２３ でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

編集後記

地域の中で安心して豊かに暮らしていくためには、人とのつながりや地域の中での支え合いが大切です。ただそれは誰か特定の方だけが「支え手」として頑張るのでは長くは続かないでしょう。今回の取材で、お互いに顔の見える、声を掛け合えるつながりが、困りごとをみんなで支え合おうという思いにつながり、誰もが無理なく自然体で支え合える地域へとつながっているように感じました。

次号▶No.197　令和2年12月 発行予定

発　行：社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町 1-1
☎045-201-2090 FAX：045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL：http://www.yokohamashakyo.jp

デザイン：株式会社 オールスタッフ

「福祉よこはま」は、共同募金配分金の一部を活用して発行しています。

広告

例えば
アナタも身近な「見守りの担い手」に！

☆ご近所のお茶会などで契約トラブルの情報交換
☆消費者被害にあって困っていたら消費生活センターを案内

高齢者に多い消費者トラブル
①身に覚えのない商品の送り付け商法
②通信販売でお試しのつもりが定期購入
③無料点検からの強引なリフォーム工事勧誘

横浜市消費生活総合センター
消費生活相談電話 TEL.845-6666
FAX.845-7720

PR

令和２年度

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険　検索

全国200万人加入!!　日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類＼プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）	
年間保険料			350円	500円

団体割引 20%適用済／過去の損害率による割増引適用

商品パンフレットはコチラ

（ふくしの保険ホームページ）

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償（傷害保険）

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

福祉サービス総合補償

（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者　社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3を除きます。）

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店　株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667　FAX：03（3581）4763
営業時間：平日の 9:30～17:30（12/29～1/3を除きます。）

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〈SJNK19-12919　2020.2.10 作成〉